

おかやま国際塾

モンゴルで

医療支援へ

1期生8人が出発

国際医療ボランティア
AAMD A（本部・岡山市）と岡山教員による実行委運営の「おかやま国際塾」1期生8人が23日、JR岡山駅などからモンゴルに向けて出発した。いずれも県内の大学生で、国際貢献への理解を深めてもらうのが狙い。

30日まで首都ウランバートルなどに滞在し、

AAMD Aの医療支援活動などに参加する。

AAMD Aは2000

年4月にモンゴル支部

を立ち上げ、眼科医療を支援。同支部では日本軍とソ連・モンゴル

軍が衝突したノモンハ

ン事件（1939年）

の元兵士が

白内障の手術を受けて

いる。8人

は、これら

兵士と交流

したり、児童養護施設

の子どもたちへの歯磨

きや手洗い

指導を手伝

う。現地の

大学生には東日本大震災の被災状況などを伝える。

岡山駅からは、岡山

大法学部3年田中杏奈

さん(21)と同三鼓理恵

さん(20)がスタッフと

共に新幹線で出発。2

人は「現地の人々に日

本の魅力を伝えると

ともに、貧困問題や国

際支援について学び

たい」と話した。関

西国際空港で他の6

人と合流し、飛びたっ

た。

9月に体験報告会を開く。(小谷章浩)



モンゴルに向けJR岡山駅を出発する三鼓さん(左)と田中さん